

【速報】 5月18日 福井県申入れ

高浜原発事故時の避難先自治体アンケート結果等に基づく申入れ

形式的な避難計画では住民の安全も避難先の安全も守れない

「子供に影響のあるもの（放射能レベル）は持ち込まないので、避難所の学校や避難先への説明は特段必要ない」（福井県）



5月18日、高浜原発事故時の避難先自治体アンケート結果等を踏まえて、福井県に申入れに行きました。市民は、アンケート実施主体3団体（末尾）の福井から2名、大阪から2名、兵庫から1名が参加しました。県は、防災課の参事等2名が対応（記録係3名も）。県庁10階の会議室で、午前11時から1時間強の申入れでした。

県の回答は、除染の基準や検査方法について、「危険なものを持っていないものではない」「子どもに影響するものを持ち込むのではない」と国のマニュアルに問題はなく、避難所となる学校や施設、避難元と避難先などと協議する必要はないという答えを続けました。

事故が迫って避難しなければならないという緊迫感もなく、そのために避難計画の実効性を求める必要性も感じず、福井県民を原発事故から守るといった気概も感じられませんでした。

なお、質問・要望書では、アンケート結果とあわせて、関電の原発で電気ケーブルの火災防護対策が基準に違反している問題についても述べ、高浜1・2号の再稼働に反対するよう求めていました。しかし、原子力安全対策課はこの日は参加できず、避難問題についても、今回は意見交換を主として、避難問題の要望事項については、今日の議論を踏まえて回答するとのことでした。

【福井県の回答】

◇アンケート結果について：

- ・避難先に国のマニュアルが周知されていないこと等が分かる
- ・避難先とのコミュニケーションは必要

◇除染の基準について：

- ・子供に影響を与えるものではない
- ・除染基準40,000cpmが1歳児の甲状腺被ばく300mSv相当の高い値とは認識していない（福島事故当時の安全委員会や、規制委員会でも周知の事実だが、認めず）

◇タイヤ接地面の検査なし：

- ・検査場所に行くまでに、アスファルトではがれると思うので問題ない

◇住民の検査全員、測定値も知らせるべき：

- ・スピード感が重要で時間はかけられない。複写式用紙を使う等いい方法があれば検討したい

◇「スピード感が重要なら」安定ヨウ素剤は事前配布を：住民周知の方法を考えていく

3団体の質問・要望書 http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/fukui_q_yobo20230518.pdf

避難先アンケート結果（福井版）http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/q_result_from_fukui20230329.pdf

2023.5.18 ふるさとを守る高浜・おおいの会/安全なふる里を大切に作る会/避難計画を案ずる関西連絡会

